

科学的裏付け重要

健康に 北上で公開シンポ

岩手生物工
学センター
研究

ポジウム二〇〇八が七日、北上市成
た。恒例の公開シンポジウムで、キ
なびとして古くから親しまれてお
ーマに、健康とのかかわりなどに

栄養素の正しい摂取法に
よる生活習慣病の改善に
は、科学的なデータの裏
付けが大事」と指摘。商
品化につなげたカワラタ
ケ育種で確認した安全性
や抗がん効果を解説した
重要性を強調した。

向性について
江口文陽氏（高崎健康
社大学教授）と水野雅史
氏（神戸大学大学院農学
研究科教授）、吉田明弘
氏（九州歯科大学助教）
をはじめ、同センター主
任研究員の坂本裕一さん
と同じく天野明さんが講
師を務めた。

「きのこと健
いっ、悪いっ多
ーマとして、

このうち、江口氏は
「きのこの健康機能性全
般、その利用、産業展開
などについて」と題して
講演。江口氏は父親のが
んをきっかけに、研究を
始めたエピソードに触れ
ながら、生活習慣病に対
する機能性食品（健康食
品）の最新情報を紹介し
た。

この中で、「キノコや
キノコと健康の最新情報
などについて紹介があっ
た岩手生物工学研究セン
ターのシンポジウム

魅力的な仕上がりに満足

北上「さくら染め」に8人が挑戦

北上市藤根地区交流セ
ンターが開設する成人講
座「さくら染め」が七日、
同センターで開かれた。

桜の枝を染料の原料に用
いたオリジナルの「さく
ら染め」を考案した、和
の衣さとう（同市鍛冶
町）の佐藤敏孝さんを
講師に、参加者はそれぞ
れに趣向を凝らしたデザ
インを施し、思い思いの
桜色の作品を作り上げて
いた。

講座は午前十時から開
かれ、地区民八人が参
加。午前中は染める布に
施すデザインを検討し、
模様を付けるための「縫
いしぼり」の作業を行っ

た。佐藤さんからはひも
や輪ゴム、割りばし、糸
などを使って四角、円状
などの模様を付けるため
の手法を学びながら、参
加者は自らの想像力を膨
らませ、作業に熱中し
た。

また、染めの作業で
は、「なるべく布を伸ば
して、入れたら（染料の）
中で泳がせるように」な
どアドバイスを受けな
がら、真剣な表情で挑



「さくら染め」に挑戦する参加者

がった人なぞもいて、互
いに作品を見せ合いなが
ら楽しんでた。

10日に市老連 ペタンク大会

北上市老人クラブ連合
会の二十年度ペタンク大
会は、十日に同市相去町
の北上総合運動公園で行
われる。

気軽に楽しめるペタン
クに親しむとともに、ス
ポーツを通じた会員の健
やかな生活につながるの
が目的。
競技は二人一組のトリ

笑いを健康

ふたご寄席 本出



ませた「健康は笑い

北上市の二子地区健康
づくり推進連絡会が主催
する「健康は笑いから・
師の一

ブルス
ら計七
を予定
の予選
ークの
◆第
算・暗
月28日
センター
コ内は
◆珠
料（岳
沢佑美